# ドーハ国際園芸博覧会屋内展示基本方針（案）

| 2023 年ドーハ国際園芸博覧会（ドーハ 2023） 屋内出展基本方針骨子<br>（令和２年３月 16 日　日本国出展委員会資料） | 骨子案を踏まえた検討（ご意見をいただきたい項目）<br>（令和４年７月８日　ドーハ屋内出展実行委員会資料） | 屋内展示基本方針（案） |
|---|---|---|
| | | １．はじめに<br>　国際園芸家協会（AIPH）により、最上位の Ａ１クラスとして承認された国際園芸博覧会については、我が国は 1984 年以来、政府出展を実施している。<br>　今般、カタール国政府から、2023 年に開催するドーハ国際園芸博覧会について参加招請があり、令和４年８月５日に日本政府が公式参加することが閣議了解された。<br>　農林水産省は花きと花き文化等に関する屋内出展を、屋外出展を行う国土交通省と連携して行うこととしている。<br>　この政府屋内出展基本方針は、屋内出展の基本的な方針を定めるものであり。これに基づいて実施計画を策定し、出展準備を行うことになる。 |
| | | ２．ドーハ国際園芸博覧会の概要<br>　ドーハ国際園芸博覧会は、令和５年（2023 年）10 月２日から令和６年（2024 年）3月 28 日までの間、「Green Desert, Better Environment（緑の砂漠、よりよい環境）」をテーマに、ドーハで開催される。中東地域では初めての A1 ランクの国際園芸博覧会で、参加国８０カ国、入場者数 300 万人が見込まれている。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | ３．我が国の花きをめぐる状況<br>（１）多様で高品質な花き<br>我が国における花きの生産技術は高い水準にあり、多様で高品質な国産花きは、これまでの国際園芸博覧会のコンテストで多くの賞を受賞するなど国際的に高い評価を得ている。<br>また、四季のはっきりした自然に対する畏敬と感謝の気持ちをあわせ持つ日本人の自然観や、生け花や盆栽、門松等の世界に誇る豊かな花きの文化をはぐくんできた。<br>一方、新型コロナウイルスの感染拡大の中で、花や緑に触れる喜びが再認識され、また、生活スタイル等社会構造の変化に伴い、家庭用需要が増加する等、花きの需要にも変化が見られた。<br><br>（２）花き産業<br>我が国の花き産業は、農地や農業の担い手の確保を図る上で重要な地位を占めるとともに、花きに関する伝統と文化は国民の生活に深く浸透し、国民の心豊かな生活の実現に重要な役割を担っている。「花きの振興に関する法律」（平成 26 年法律第 102 号）は、花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針の策定とともに、花きの輸出の促進、花きの博覧会への参加に対する支援について規定している。<br>国内の切り花購入額は減少傾向、輸入切り花は増加傾向にある中で、農林水産業の輸出力強化戦略の一環として、花き輸出額については、令和 12 年（2030 年）に 200 億円、令和 17 年に 450 億円を目標として取り組んでい |

| | | |
|---|---|---|
| | | る。 |
| １．基本的考え方<br>・　屋外出展と一体となった出展とする。（展示施設内に展示）<br>・　日本の花き園芸文化の魅力を伝えるとともに輸出拡大につなげる。<br>　我が国の多様で高品質な花き、花き園芸技術、緑化技術、そして奥行きのある花き文化を発信するとともに、国産花きの輸出拡大に取り組む。<br>・　被災地復興支援への感謝と横浜国際園芸博の PR<br>　カタールの東日本大震災への支援（資金提供と LNG・LPG の追加供給）に感謝して被災地で生産された花きの展示により被災地の復興を示すとともに、2027 年横浜国際園芸博を PR する。 | ○基本的考え方に関する検討（例）<br>　日本の花きや緑化等の技術を「Green Gift From Japan」として展示（左記の委員会で設定された日本展示のテーマ）。それを踏まえ、以下を検討。<br>・屋外出展と一体となった屋内展示のあり方（屋外・屋内が物理的に分かれる場合の一体性の検討）<br>・ドーハ国際園芸博覧会のテーマ、サブテーマ（後出）との関連<br>・輸出拡大につながる日本の花き園芸文化のファン・理解者づくり<br>・我が国の優れた花き・花き文化の発信に当たり留意すべき事項（自然との調和、持続的な生産、世界でも最先端の開発技術等強調すべき項目）<br>・被災地復興の紹介、2027 年の国際園芸博覧会のＰＲについての対応方針（効果的な手法）<br>・その他考慮すべき事項（新型コロナウイルス流行下での花きの効用の強調等） | ４．出展の基本的考え方<br>　ドーハ国際園芸博覧会は、地球温暖化等の気候変動や人間の活動等により砂漠化が進展している中で、「Green Desert, Better Environment（緑の砂漠、よりよい環境）」をテーマとして掲げ、砂漠化を抑制し、持続可能な環境を確立するための革新的な解決策について、参加者と来場者に奨励し、刺激を与え、情報を提供することを目的としている。<br>　また、このテーマに沿ったサブテーマとして、①最新の農業、②テクノロジーとイノベーション、③環境意識、④持続可能性が設定されており、出展者は少なくともこれらの一つを採用することとされている。<br>　我が国の出展テーマについては、国際園芸博覧会日本国出展委員会において、「Green Gift from Japan」（日本からの緑の贈り物）」とされ、日本の花きや先進的な緑化技術を「Green Gift」という形で官民連携により展示し、もって中東地域も含めた日本産花きの輸出振興を図るとともに日本の緑化・環境技術の海外展開の促進を図ることとされたところである。この出展テーマを踏まえ、屋内出展においては、日本の優れた花き、花き文化等を紹介するとともに、本園芸博覧会のテーマ、サブテーマ（テクノロジーとイノベーション、持続可能性）に関連する我が国の技術等を屋外展示と連携して一体的な考えの下に発信する。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | なお、上記の考え方を踏まえ、屋内出展内容の検討に当たっては、以下の事項に留意するものとする。<br><br>（１）花きの輸出拡大と花き関連産業の振興<br>本博覧会は、国際園芸家協会（AIPH）にＡ１クラスと格付けされた国際園芸博覧会としては、初めて中東地域で開催されるものである。この博覧会の場で、中東地域始め世界に我が国の優れた花きや花き文化を紹介するとともに、コンテスト等で高い評価を得ることにより、我が国の花きの国際的な評価を高めることができ、これまで輸出実績が少なかった中東地域への新たな輸出拡大、国内花き関連産業の振興を目指す。<br><br>（２）日本の花きの文化の魅力等の発信<br>我が国の自然と調和した持続的なライフスタイルやその中から育まれてきた生け花、盆栽等を始めとする世界に誇る花き文化の理解を促進する。また、新型コロナウイルス感染症の流行を契機として、花や緑が身近にある暮らしの重要性が一層高まっていることへの理解を促進する。<br><br>（３）被災地復興支援への感謝<br>東日本大震災の際にカタールから支援いただいたことを踏まえ、被災地で生産された花きの展示を行うこと等により、支援への感謝を示す。<br><br>（４）2027 年国際園芸博覧会のＰＲ<br>令和９年（2027 年）に横浜市で開催される2027 年国際園芸博覧会について、世界にＰＲする機会とする。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | ５．屋内出展のテーマの検討<br>　開催主体、出展者及び来場者に我が国のメッセージを伝える屋内出展のテーマは、例えば、以下を発信する観点から検討する。<br>・我が国の優れた花き、伝統ある花き文化<br>・花や緑の有する機能、効用とそれが心豊かな生活の実現に果たす役割<br>・砂漠の緑化、持続可能な開発等本博覧会のテーマ・サブテーマに資する日本の技術に関する情報（水耕栽培、底面給水、壁面緑化、植物工場等） |
| ２．展示・催事等の内容と方法<br>（１）展示<br>・　日本の豊かな四季を表現する。<br>・　出展者（地方公共団体、民間団体等）の特色を活かすとともに、開催国の関心に応える展示とする。<br>・　実物や写真、映像等の様々な媒体を組み合わせて来場者の記憶に残る展示とする。<br>・　展示品の知的財産権に配慮する。 | ○展示・催事等の内容と方法に関する検討（例）<br>（１）展示<br>・博覧会の全体テーマ及びサブテーマに関連のある展示の検討<br>＜全体テーマ＞<br>緑の砂漠、よりよい環境<br>＜サブテーマ＞<br>①最新の農業（革新、研究、科学的進歩　等）<br>②テクノロジーとイノベーション（化石燃料使用からの脱却　等）<br>③環境意識（天然資源の保護　等）<br>④持続可能性（様々なニーズに対する対応等）<br>　これらのテーマに沿った展示が必要であり（サブテーマについても少なくとも一つを採用することとされている）、革新的な農業技術、砂漠化に対応した緑化技術等、関連する展示を検討<br>・日本の豊かな四季など我が国の花き文化を生み出した背景等の表現方法 | ６．展示・催事等の内容と方法<br>（１）展示<br>①　屋内展示は会場内の日本の屋外展示区画に近接して建設される予定の屋内展示施設（ドーム型を予定。約 700 ㎡）内の一画（約 200 ㎡）を活用して展示する予定である。<br>　また、近接する屋外展示（庭園）と連携し、政府出展としての一体性を持たせた演出に配慮する。<br>②　展示については、上記５のテーマに即した内容とするとともに、日本の豊かな四季や、自然との共生等の認識が我が国の花き文化の背景にあることを表現する演出にも配慮する。また、2027 年国際園芸博覧会への出展参加や来場を促進するよう、関係省、2027 年国際園芸博覧会協会等との連携の下に効果的なＰＲを実施する。<br>③　企画展示（地方公共団体、園芸関係団体、民間企業等が出展）においては、各出展者の特色 |

| | | |
|---|---|---|
| （２）輸出拡大に向けた取り組み<br>・　問い合わせ先の表示、名刺入れの設置などにより取引拡大につなげる。<br>・　日本出展の記憶に結びつく来場記念品や園芸関連品の販売を行う。 | ・記憶に残る展示のための媒体（実物、写真、パネル、映像等）の効果的な活用方法。特に花き等実物以外のもの（先端技術等）の効果的な展示方法<br>・会期が秋から春（10 月～３月）であることを踏まえた展示用花きの確保（最近ではチェンマイ国際園芸博覧会が 2006 年 11 月～1 月に開催<br>・屋内展示は、カタール側が用意する施設内の一画（200 ㎡想定）で実施することを想定。１０月以降の高い気温に対応した適切な温度管理（展示区画、バックヤード）<br>・展示用花き等の現地調達の可能性<br>・2027 年国際園芸博覧会のＰＲ<br>・知的財産権の侵害を招かないための留意事項等<br>・その他考慮すべき事項（新型コロナウイルス対策等）<br><br>（２）輸出拡大に向けた取り組み<br>・カタールとの花き類の貿易額は少なく、中東全体でみても、1400 万円（2021 年）の輸出額となっている。中東地域からの輸入は 2.6 億円（同）であるが、その大部分はイスラエルから。<br>・カタールの花き類の輸入額は切り花、植木類を中心に 3,450 万 US ドル（2020 年）となっている。<br>・取引拡大につながる効果的な方策について（商談スペースの確保、バイヤー情報の収集と出展 | を活かした展示とするとともに、屋内展示のテーマに即した統一感のある展示とする。<br>④　現地の高い気温下において、展示施設及びストックヤード等内の温度が適切に管理され、展示の品質が維持されるよう留意する。また、花きの輸送段階での品質確保に資するため、円滑な通関、検疫手続きが行われるよう関係当局との連携を図る。<br>⑤　展示については，園芸関係者や花き園芸に関心のある層だけではなく、若い世代を含む幅広い年齢層にもアピールできる内容とする。<br>⑥　実際の展示物に加え、写真、音と映像等の様々な媒体の活用、「発見」と「体験」の導入、花き以外の我が国の文化と関連づけた演出等により、来場者の記憶に残るような工夫を行う。<br>⑦　展示花きの品質管理等のため、それらを担当する専門スタッフを配置する。<br>⑧　展示品の知的財産権が侵害されないよう、適切な管理を行う。<br>⑨　今後の感染症の流行の状況に留意しつつ、現地における所要の防止対策を的確に実施する。<br><br>（２）ビジネス展開、商業的活動<br>カタールを始めとする中東地域、さらに国際市場へのビジネス展開に寄与する次の取組を検討する。<br>①　出展者等と来場者の商談スペースの確保、受付等で収集したバイヤー情報等の出展者への共有<br>②　我が国とカタール等の花き業界関係者によ |

| | | |
|---|---|---|
| （３）催事<br>・　開会式、ナショナルデー、閉会式では、生け花、フラワーアレンジメントのパフォーマンスなどにより日本の花き園芸文化を発信する。 | 者等への還元、情報交換会の開催など）<br>・商業活動（販売）スペース確保と関連品の販売方策について<br><br>（３）催事<br>・　開会式、ナショナルデー、閉会式における演出、パフォーマンスについて<br>・その他催事の実施（華道、茶道、盆栽選定など。実演や体験なども含む）<br>・催事プログラムにおける 2027 年国際園芸博覧会のＰＲ | る、関係強化及びビジネス拡大等のための意見交換会の開催<br>③　効果的な集客の観点から、日本の出展に関連する園芸品等の販売及び日本の飲食料品の提供を行うスペースの確保を検討する。<br><br>（３）催事<br>日本の出展の開会式、閉会式、参加各国毎に設定される予定のナショナルデイ等の催事では、例えば、生け花、茶道等を活用することにより、日本の花き文化等を演出することで、関係者、来場者の日本及びその出展への理解を促進する。<br>ジャパンデイに合わせて、日本の花き文化等を体験できるようなプログラムを実施する。<br>ナショナルデイの記念式典等の行事において、2027 年国際園芸博覧会のＰＲを実施する。 |
| ３．広報活動<br>・　雑誌などの紙媒体、ウエブ、SNS など多様な媒体を活用し、日本の展示・催事の様子、現地でのトピックス、各種コンテストの結果等を情報発信する。<br>・　日本国内で積極的に情報発信する。特に花き園芸関係者へ周知する。<br>・　開催国の来場者に対し、展示だけでなく、花き園芸についてインフォメーションカウンターやウエブで広く情報発信する。 | ○広報活動に関する検討<br>【開会前】<br>・Ｗｅｂ、ＳＮＳ、メディア等の活用による国内向け広報（出展者、参加者向け）のあり方<br>・海外への情報発信の手法<br>【会期中・会期後】<br>・日本の展示・催事、コンテスト結果等の情報発信のあり方（Ｗｅｂ等の活用。展示者、展示内容、受賞結果等のＰＲ。国内、海外向け）<br>・会場での情報発信のあり方（インフォメーションカウンターの設置等の手法、提供情報の内容等）<br>・ＴＶ番組等メディアを活用したＰＲ | ７．広報活動<br>新聞、雑誌、ポスター、パンフレット、テレビ、ウェブサイト、SNS 等の双方向メデイアなど多様な媒体を活用して日本の出展、日本の花き・花き文化を広く PR する。<br>（１）会期前<br>出展者の募集等の国内向け広報を関係機関、花き関係団体等を通じて実施するとともに、多様な媒体により、ドーハ国際園芸博覧会の開催及び日本の政府出展を発信する。また、日本の出展への来場者確保に資する英語での広報を実施する。<br>（２）会期中<br>日本の展示・催事の様子、現地でのトピックス、品種コンテストの結果等を積極的に国内 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 外に発信し、2027 年国際園芸博覧会に向けた機運醸成に資する。また、ＴＶ等のメディアによる現地取材、放送について協力を求める等効果的な発信が行われるよう努める。<br>　インフォメーションカウンターの設置、専門スタッフの配置により積極的な情報提供を行う。<br>（３）会期後<br>　コンテスト受賞結果等出展結果の概要を公表するとともに、屋内出展報告書をとりまとめ、公表する。 |
| ４．専門スタッフ等<br>・　専門スタッフを配置して展示花きの品質を保つとともに、将来の花き園芸業界を担う人材の育成と交流の機会とする。<br>・　専門スタッフを含めた関係者による展示替えの作業が深夜とならない展示計画とする。<br>・　現地の日本人コミュニティにボランティア参加などの協力を求める。 | ○専門スタッフ等に関する検討<br>・展示品の品質保持等、展示の成功のための人材確保方策<br>・国際園芸博覧会の機会を活用した我が国の花き関係業界の人材育成のあり方（展示ノウハウ、最先端の技術に係る経験、海外との人脈づくり等）<br>・現地の協力者の確保方策等 | ８．花き業界の活性化と人材の育成<br>　国際園芸博覧会という貴重な機会を活用し、花きの育種、生産、流通、販売、文化等の各分野からの人材が、企画展示、品種コンテストや催事への参加、専門スタッフの派遣など様々な形で協力することで、花き業界全体の国際化と振興につなげるとともに、将来の花き業界を担う人材の育成と交流に資する。 |
| | ○その他<br>・屋内展示についてその他留意すべき事項等 | |